

もし…

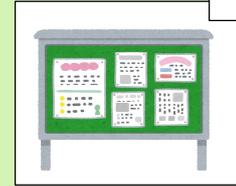
大規模災害が起きた時の「ごみ」について

ポイント1

ごみの分別や収集方法が変更になる場合があります

- ・被災状況により、一時的に収集の停止やごみの分別・収集方法が変更になる場合があります。
- ・ごみの分別・収集方法について、数日内に以下の方法でお知らせします。

- ①飯能市ホームページ内の防災情報
- ②飯能市ご当地アプリ内の防災情報
- ③チラシ(避難所・地区行政センターなど公共施設での掲示や配布)
- ④飯能市 X(旧ツイッター)などの SNS など



・市からのお知らせは、周りの方にも伝えるなど、地域の皆様に情報を共有してください。

ポイント2

「災害ごみ」と「生活ごみ」は分けてください

災害ごみ【片付けごみ・がれき類】

地震や台風、豪雨などの後、住宅を片付ける際に出るごみです。

災害ごみも「分別」が必要になります。

被災状況により、地域の置き場(一時保管場所)を指定する場合があります。

【分別の例】

●災害ごみ

(被災により使用できなくなった廃棄物)

- ・畳・家具類・家電製品・布団 など

●災害がれき

(損壊した住宅等を撤去する際に出てくる廃棄物)

- ・木くず・コンクリートがら・金属くず など



【分別された災害ごみ】

分別により、ごみ処理の手間や費用が減り、また処理期間も短くなり、迅速な復旧に繋がります。

生活ごみ【通常の生活で出る家庭ごみ】

災害時には、一時的な収集の停止や分別・排出方法が変更になる場合があります。

急いで出す必要のないごみは、自宅で保管してください。



【道路上まではみ出した混合ごみ】

出典:環境省「災害廃棄物対策フォトチャンネル」

災害ごみと生活ごみが混ざると収集や処理の遅れや車両通行の障害、悪臭や害虫、火災の発生原因になりかねません。

ポイント3

生活ごみ(通常の生活で出る家庭ごみ)について

災害の規模によっては、通常どおりの収集ができなくなる場合があります。

そのため、生活ごみについては、腐敗や悪臭の原因になりやすい可燃ごみ(燃やせるごみ)を出してください。

資源物など、急いで捨てる必要のないごみは、通常の収集・処理体制が復旧するまで、自宅で保管してください。

●生活ごみ(可燃ごみ)の例

・生ごみ・オムツ・弁当やレトルトなどの汚れたプラスチック容器・トイレごみ など



※臭いが発生しやすい生活ごみは、「防臭袋」や「消臭袋」を使用すると臭いを抑えられます。
店舗やホームセンターなどで手に入るの、平時から備えておくと便利です。

ポイント4

災害の時こそ、ごみの「分別」が重要です

災害時には、生活ごみに加え、大量の災害ごみが出ます。

ごみの処理が進まないと、復旧までに多くの時間を費やすこととなります。

スムーズなごみの処理には、ごみを出す際の「分別」が非常に重要となります。

特に、以下の点に気をつけてください。

①災害ごみと生活ごみは混ぜないで、別々に出してください。

②地域の置き場(一時保管場所)が指定された場合は、災害ごみは地域の置き場へ、生活ごみは収集が再開した時点で、通常利用している集積所へ出してください。

③生活ごみは、腐敗しやすい可燃ごみ(燃やせるごみ)を出してください。

例)壊れた冷蔵庫は中を空にして災害ごみ、中身の食材等は生活ごみ(可燃ごみ)へ

④ガスボンベ、スプレー缶やライター、電池・バッテリーなどの有害ごみや金属類・ガラスなどの不燃ごみは、特に気をつけて、他のごみに混入させないでください。

(充電式バッテリー(リチウムイオン電池等)は、平時でも発火事故が多発しています。)

⇒施設で発火や爆発事故が起きて破損すると、受け入れを停止せざるを得なくなり、復旧に大きな影響を及ぼす恐れがあります。

一日も早い日常生活を取り戻すためにも、ごみの分別にご協力ください。

ポイント5

日頃から…

①市のごみ分別区分や出し方をよく確認・理解しておきましょう。

②自宅等の整理整頓を行い、不要な物は処分しておきましょう。

③家具を固定する、住宅の耐震を確認するなど災害対策をしっかりしましょう。

⇒②③では、落下や倒壊から命を守り、災害ごみを減らすことができます。

